

高圧危険

建物の壁を這っていく
配管が気になる。
屋上にたどりついて手をかけ
よつやく息をついている管は
潜望鏡と命名した。

あっちの状況を見たらうで
こっちの都合を聞き合わせ
向こうの次第を見きわめて
前後左右はいつに及ばず
縦横斜め……って、

第201回

文と構成 河村喜代子
写真 今井今朝香

「町なか」に存在する見える手」

もつ言った気がするが
とにかく諸事情を勘案の上
万障繰り合わせた結果
絶妙なアンジュレーションを
披露しながら壁に取りつく
気配り管があったりする。
町場で配管の妙技を

見せてくれているのは
排気用や換気用のダクトたち。
スペースに縛りがなく
自由に動ける場所だったら
管の振る舞いに工夫もない
ただヌーホーとした
一本ダクトになっていたはず。

雑巾を落としても
拾いに行くなんてムリな
都会の事情が呼び寄せた
板金技術のなせる技から
偶然とはいえ
毛タンアートの顔色を失う
傑作品が生まれていた。